The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	TA (Teaching Assistant) の声　サイバーメディアフォーラム no.15　CALLシステム
Author(s)	
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2014, 15, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70378
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

授業を通して感じたTAの役割

角谷　祐科（言語文化研究科 言語文化専攻）

1. はじめに

火曜日の3限、金曜日の2限、4限にフランス語初級Ⅰの授業のTAをさせていただきました。本学におけるTAの役割の1つに、「大学院生に対する教育指導能力についてのトレーニングの場を提供し大学院生に対する修学のための支援を行う」と規定されていますが、前期の授業を通してTAをしていて感じたことを述べていきたいと思います。

2. 授業の様子とTAの仕事

授業では先生の講義の他に、毎授業の始めに実施される小テスト、授業内で適宜行われるリスニングや文法、活用形の練習などがありました。学生は慣れないPCでの作業や外国語の特殊文字に苦戦しながら授業に取り組んでおり、授業終了後も先生に質問したり、私のところに勉強方法を尋ねにきたり、分からないところを聞きに来たりと積極的な姿勢がとても印象的でした。4月、5月あたりではぎこちなかった学生たちも徐々に打ち解け始め、先生のジョークに笑ったり、学生側から発言したりと、とても良い雰囲気で授業が進みました。TAとしては実際に授業そのものに関わることはあまりなく、小テストの採点や機械操作の補助、時折学生の手伝いをする、というものが主な仕事でした。

3. 学生の姿勢

多くの学生にとって初めて英語以外の外国語を学ぶ授業であったと思いますが、慣れない外国語に最初はとまどっていた学生も、徐々に小テストで高得点を出したりと平均点も安定していきました。小テストの中にコメント欄があり、自由記述であるそのコメント欄にも期末試験が近づくにつれて、「勉強しました。自信あります。」や「なんか掴めてきました。」という前向きなメッセージが増加しました。こちらもコメントの質問に答えたり、どこに気をつけなければならないのか助言していたことも重なり、嬉しいのと少しほっとしたという気持ちを抱いたことを覚えています。期末試験のみという授業が多い中、中間試験を実施したことで学生のモチベーションが下がらず、逆に危機感を覚えてやる気を出した学生もおり、どのクラスの学生もとても一生懸命勉強していました。また、その努力の結果が、徐々に難易度が上がっていく小テストにも明確に反映され、TAとしてとても嬉しく感じると共に、学生の熱心さに対する驚きもありました。

4. TAという立場から

私自身、外国語の授業のTAは初めてということもあり、学生と上手にコミュニケーションが取れるかなど心配なこともありましたが、学生の積極性に助けられていました。直接私が授業で何かを発することはありませんでしたが、小テストの採点、コメント欄に書かれたメッセージに返事をするという作業から、学生と関わりを持つ機会がありました。小テストの採点が自分自身の復習になり、さらに先生の授業方法から各単元の教え方など、いかに学生に分かりやすく、かつ考えてもらうかということを、教える側の立場からも学ぶことができました。授業を通して、1年生の授業というものは他学年の授業と違い、学生側も友人を作りながら、そして大学の授業にも慣れながら、という手探り状態なのだ、という印象を受けました。特に2つ以上の学科が同時に受けている授業は、同じ学科同士の友人としか関わらないことも多く、TAという立場にいる自分自身が橋渡しの役割を担うべきだということを強く感じました。TAという立場は先生の授業の進め方や生徒とのコミュニケーションの取り方、など指導側の立場から見ることができるので、実際に教壇に立つ事はなくても今後自分自身が授業を持つ際に活かせることが多くあるという印象を受けました。また、学

生からの本音も聞く事ができ、学生側も先生に聞くのは少しためらわれるという質問も TA なら尋ねることができる、ということがあるようなので、この良い意味で中間的立ち位置を上手く活かし、より質問しやすい雰囲気を作ることも TA の役割の一つであると感じました。

5. まとめ

TA は先生と学生の中間のような存在であり、どちらの立場でも物事を捉えることができるので、それぞれの立場からの長所短所を垣間みることができました。また、学生とコミュニケーションを取る機会から、単に質問に答えるだけでなく、答え方や声の掛け方で学生のモチベーションをいかにあげるかということをとても意識しました。実際に授業を行うことがなくても、「教育指導能力のトレーニング」という意味では、TA は大いに役立つものであり、回数を重ねることで気がつくことも多々あるかと思います。

今回、TA という貴重な経験をさせていただき、教師という立場からも学生という立場からも授業を考えることができたというこの経験をこの先、活かしていきたいと思います。